



田上小学校は秋に千歯こきで昔ながらの脱穀に挑戦した

動植物とのふれあいから学ぶ

# 自然が先生、 角間の 里山自然学校

貴重な自然が今なお残り、多様な生き物が暮らす里山。それらはとても尊く、人々の心を惹きつける。里山で動植物とふれあい、何かを感じ取ることが、自然を失いつつある現代人にとって大切なのではないだろうか。「角間の里山自然学校」を利用して、金沢市立田上小学校、金沢大学教育学部附属養護学校で、里山が果たす教育的役割について聞いた。学生編集委員 松田悠希、菅原洸

新たなものを発見する  
楽しさ学ぶ

金沢市立田上小学校が里山自然学校を利用するようになったのは、「森林と私たちの生活の1コマ」という社会科授業がきっかけだった。現在は5年生が「総合学習」という授業枠で里山を利用している。今年は、北谷（キタダ）と呼ばれる谷内田（棚田）で米作りを体験するとともに、周辺を散策しながら里山とは何かについて考えた。

米作りでは「金沢の稲作」で、先人の知恵を学んだ。里山の湧き水を水田に引き込み、自然のおいしい水を稲にも与えるという話があり、植物を育てるには水道の水を与えるものだと思っていた子どもたちは驚いた様子だった。親や先生から「自然を大切に」と言われてきた子どもたちは、教室での学習とともに、実際に里山を通じて「なぜ大切にする必要があるのか」を一步踏み込んで学ぶことができた。田植では「今までしたことがなかったから、泥だらけになって楽しかった。泥に足を入れるときの感じが気持ちいい」と満面の笑顔をこぼしていた。

「里山調べ」活動では、事前に里山自然学校の先生からレクチャーを受け、子どもたち自らが決めた計画にそって、調査に出かけた。自分たちが行く時はいつも、きのこが生えていること、特に雨上がりには大きなきのこが見られるということに驚



親子でサツマイモの収穫をした

き、大喜びした。新たなものを発見する楽しさを学べたに違いない。

子どもたちは里山での新たな発見を通して、自然に興味を持ち始めた。「里山調べ」を繰り返しながら、自然に対する考えを発展させていくことだろう。

里山に慣れ親しみ、学びの場として、また、生活に深くかわる場として理解されるようになれば、子どもたちは好奇心をもって自らより多くを学びとるようになるだろう。そして、子どもたちの笑顔が里山にもっと広がっていくだろう。

里山の影響力  
子どもたちに変化が

金沢大学教育学部附属養護学校は里山自然学校創設以来7年にわたって連携して活動に取り組んでいる。

今年は、里山を利用する頻度が増え、恒例の竹の子掘りや流しそいうめん、里山ウォークラリー、豚汁作りなどさまざまな活動を行っている。障害を持つ子どもたちが、活動に積極的に参加し、それぞれ





夏に里山の竹を使って流しそうめんを体験した附属養護学校の子どもたち

「自然は先生から学ぶものではなく、自然そのものが先生なんです」と佐川助教は語る。学習順序に関係なく、自分の興味や関心にそって学ぶことが、「誰にも教えられずに何かを発見することにつながる」のだという。里山学習のよい点は、教える人、教えらるる人の関係がないうちの子どもたち

の楽しみ方で有意義な時間を過ごしている。

最近、子どもたちの間に変化が起き始めている。里山へ来るとより穏やかになり、のびのびとしている。草花や昆虫にも興味を持つようにもなってきた。これは「子どもたちとの関係が密接になってきている里山の存在が大きいのではないか」と、同校の箸本淳也教諭は考える。今後、里山での学習を続けていけば、子どもたちの生活が豊かになり、後に大きな財産となることは間違いないだろう。教室では学べないこと、自然に触れ合う楽しさ、植物、昆虫などを自分で見つける喜びがここにはある。自然に直接触れることによって、子どもたちに良い影響が現れることを期待したい。

## 直接触れなければわからないもの

「子どもたちにとって大事なことは直接体験。きれいなストーリーをいくら用意しても、『勉強』としては反応できるが、『実感』としては反応できない。自然に直接触れて感じて欲しい」。こう話すのは里山自然学校事務局を務める教育学部の佐川哲也助教である。里山自然学校では、子どもたちの学習を最も重要であると捉えている。現代の学校教育は教科書が中心であり、それ以外のことを子どもたちは知っているようで知らない。そこで『生の自然』を直接体験によって感じてもらいたいのだ。

それでは自然を体験し、学習するとはどういうことだろうか。

「自然は先生から学ぶものではなく、自然そのものが先生なんです」と佐川助教は語る。学習順序に関係なく、自分の興味や関心にそって学ぶことが、「誰にも教えられずに何かを発見することにつながる」のだという。

里山学習のよい点は、教える人、教えらるる人の関係がないうちの子どもたち



春の田植え。なかなかできない体験に子どもたちも大喜び

は教室から離れて、自然な状態で感性のままに体験し、そこから何かを得ていくことができる。子どもたちだけではできない。我々にとっても里山は重要な場所である。現代人は常に時間に縛られており、「自然の時間」から切り離されて暮らしていると佐川助教は考えている。本来時間とは「時の間(はざま)」であり、あるときは速く、あるときはゆっくりと流れるものなのだが、現代では秒針の刻む音におびえながら暮らすようになってはいないだろうか。「自然の時間」はゆったりと

## 限らない自然の宝庫 里山活動に参加を

里山自然学校の活動取材して、「自然は貴重で素晴らしいものである」とあらためて思った。生活の根底にあるのは自然であり、私たちの生活を豊かにしてくれる大切な

ものである。

自然は子どもたちに楽しさ、安らぎなど様々なものを与えてくれる。特に豊かな自然が身近にない今の子どもたちにとっては貴重であり、影響力がある。木や花、昆虫などを直接目で見て、手で触れると、新たな発見が生まれる。教科書やテレビだけでは感じられない自然の匂いや実際の色、形、大きさなど、学べるものは限りなくあることを知った。自然の大切さを刷り込みのように覚えるのではなく、自ら感じて考えるようになることこそが重要であるのではないだろうか。里山自然学校は自然を直接体験する場を提供して、教育支援に貢献しているのである。

しかし、広報活動が不足しているためか、里山自然学校の存在は意外に知られていない。特に金沢大学の学生が知らないのだ。里山活動のサポーターとして登録する「里山メイト」には、400人を超える地域住民が登録しているという。しかし、大学が主催する里山の活動に学生の姿がほとんど見られない。里山は自然に触れる場ばかりではなく、活動に参加している人たちとのコミュニケーションの場である。そのことを地域住民はもちろん、金沢大学の学生にもっと知ってもらいたい。そして活動にぜひ参加してみたい。この記事を読んでもらい、自然が子どもにも与える影響を知り、あらためて自然の大切さを考えてもらえたら嬉しいと思う。